

世界の貧困問題 アミーナ・モハメッド氏

Amina MOHAMMED

国連事務総長特別顧問(開発担当)。ナイジェリア出身。大統領上級特別顧問を経て、2012年から現職。開発政策解決センターCEO。子どもは養子を含め6人。52歳。



松田賢一撮影

編集委員が 迫る

「世界の貧困をなくす」という未曾有の挑戦に各国リーダーが踏み出したのは、2000年9月。ミレニアム開発目標(MDGs)が定められ、達成期限の15年が近づいている。貧困は改善されたのか。問題を統括する国連事務総長特別顧問アミーナ・モハメッド氏が来日したのを機に、現状と課題を聞いた。

(聞き手 永峰好美)

サハラ以南 改善に遅れ

■1・25が未満平減

7日、MDGsの進捗状況について、国連から最新の報告書が発表された。内容をどう評価するか。

「途上国の貧困対策に焦点を絞ったMDGsは、この15年間で、国際的な開発指針として機能し、一定の成果を上げることができた分野は少なくない。1日1・25が未満で暮らす極度の貧困層は1990年と比べてほぼ半減、目標を達成した。中国やインドといった新興国の成長が全体の数値を好転させた」

「健康・衛生面では、マラリアと結核による死亡者数が大幅に減り、23億人以上が安全な飲料水を利用できるようになった。小学校に入学する男女間格差が解消された。女

ミレニアム開発目標の達成状況

目標1	😊	極度の貧困と飢餓の撲滅
目標2	😞	初等教育の完全普及
目標3	😊	ジェンダーの平等推進と女性の地位向上
目標4	😞	乳幼児死亡率の引き下げ
目標5	😞	妊産婦の健康の改善
目標6	😊	HIV/エイズ、マラリア等の疾病まん延の防止
目標7	😊	環境の持続可能性の確保
目標8	😞	グローバルなパートナーシップの構築

(「国連ミレニアム開発目標報告2014」と外務省資料より作成)

😊 改善された項目 😞 積み残された課題

ミレニアム開発目標(MDGs) 2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された「ミレニアム宣言」をもとにまとめられた。1990年を基準年とし、貧困半減など8分野において、国際社会が2015年末までに達成すべき数値目標を掲げている。

性の政治参加は増して、46の国で国会議員の女性比率が30%を超え、女性の地位向上は進展している」

「目標を達成できず、課題が残ったのはどの分野か。妊産婦や5歳未満の乳幼児死亡者数はほぼ半減できたものの、それぞれの目標値、1990年比で4分の1、3分の1には届かなかった。熟練の医療技術者による指導や検診で、この不幸な状況は解決可能だ。また、途上国の90%の子どもが小学校に入学するが、問題は高い中退率。その傾向は、紛争地域や農村部の貧困地帯の子どもたちに多くみられる」

貧困 無教養暴力生む

「確かにサハラ以南は、どの分野でも改善が遅れが目立つ。アフリカは農業分野で成長の可能性を秘めている。小規模農家で女性が果たす役割は重要なのに、女性というだけで土地所有や融資などに制限があり、社会の中で稼ぎ手として認識されていない。教育を受けていない若者層も同じだ。こうした社会から取り残されている人々に注目し、彼らを包括的に生産過程に取り込む必要がある。既に、食糧安全保障や栄養改善の面

普遍的成長モデル 探る

「国連では現在、2016年以降15年間の国際協力の新たな枠組み、「ポスト2015年開発アジェンダ(検討課題)」を策定する作業が進められている。MDGsは、先進国が連携して途上国支援の数値目標を明示し、目標達成に向けて政治的意思を示した点で、意義は大きかった。途上国の貧困を削減して社会を安定させることは、結果的に世界の平和や安定に寄与するという考え方に基づいていた」

「新しい枠組みでは、大きな変化がある。MDGsで積み残した課題を踏まえて『貧困の撲滅と格差是正』を掲げると同時に、『持続可能な成長』を中核に据える。途上国対先進国という従来の対立的構図でなく、両者にとって求められる普遍的な成長のあり方を探る。30年までには貧困

を完全になくし、誰一人として無視され、置き去りにされることのない世界をつくるのが、我々の使命だ。最終的には、来年15年9月の国連総会で合意文書を探採する」

「母国で大統領顧問としては、どんな仕事を？」
「MDGs担当の特別顧問に就任した05年は、画期的な年だった。途上国を開発の主役に据え、途上国自身が援助を管理する能力を高めるといって『パリ宣言』が採択された。それまで先進国からの借金返済を優先し、切り捨てられてきた医療や教育などの公共サービスを復活させ、貧困層のニーズに応えた」
「財政の効率化と透明化を進め、女兒や女性の就学・就業機会を増やした。『キャッシュ・トランスファー・プログラム』は、子どもを就学させると現金給付があり、仕事のノウハウも学べるもので、経済的自立を促した。一つ一つの経験が国際的な枠組み作りでも役立っている」
「日本に期待することは何か。紛争後の平和構築、防災、保健衛生など、日本が得意な分野で、特にリーダーシップを発揮してもらいたい。安倍首相は、国内外で女性が輝く社会を実現すると表明している。男女格差の背景にある根深い伝統的価値観にまで踏み込んで新しい社会を創造できるか、注目している」

成育環境 温かい目養う



ナイジェリア人の父と英国人の母の間に生まれた。父の実家は貧しく、長男の父以外は学校に行っていない。一方、看護師の母は、若い頃から海外に飛び出すことを勧めた。そんな成育環境が、「世界の貧困」を見つめる温かい目を養った。
「援助」から「投資」へ。最近の途上国援助では、モハメッドさんも指摘するように、経済成長や雇用を中心とした議論が多い。「誰にでも理解できる簡潔なアジェンダ」を完成させたら、母国に戻り、少女たちの教育訓練など、現場で課題に取り組むつもりだ。(永峰)